

キャラクター名	プレイヤー名
リタ・アルムスター	

種族	レプラカーン	種族特徴	暗視、見えざる手、姿なき職人		
生まれ	神官	性別	女	年齢	11→12→13→14→24
冒険者Lv	12	経歴			
経験点	150				

技	10	能力値	A-F	成長	他修正	能力値	ボーナス	技能	Lv.	技能	Lv.
		器用度	10	26		46	7	シューター	12	ウォーリーダー	10
体	5	敏捷度	1	6		17	2	プリースト/クリスカコア	2	ジオマンサー	2
		筋力	2	5		12	2	レンジャー	9		
心	8	生命力	9	14		28	4	セージ	9		
		知力	10	30		48 + 1	8	エンハンサー	5		
		精神力	5	17		30	5	アルケミスト	6		

戦闘特技				言語			会話	読文
治癒適性	2122p	命中強化	2-230p	交易共通語		○	○	
不屈	2123p			神紀文明語			○	
ポーションマスター	2123p			ドラゴン語		○		
鋭い目	2120p			汎用蛮族語		○		
弱点看破	2121p			魔神語		○		
マナセーブ	2123p			魔動機文明語		○	○	
ターゲットィング	1-280p			魔法文明語		○	○	
武器習熟A/クロスボウ	1-281p			リカント語		○		
牽制攻撃	1-286p			ドーデン地方語		○	○	
武器習熟S/クロスボウ	1-281p			ユーレリア地方語		○	○	
先陣の才覚	MA24p							

練技/呪歌/騎芸/賦術		
キャッツアイ	鉄壁の防陣Ⅰ	
ストロングブラッド	鉄壁の防陣Ⅱ：鉄鎧	
ビートルスキン	鉄壁の防陣Ⅱ：堅体	
チックチック	鉄壁の防陣Ⅲ：鋼鎧	
デーモンフィンガー	鉄壁の防陣Ⅳ：城鎧	
ヒールスプレー	瑕疵への追撃	
ヴォーパルウェポン	傷痕の見立て	
クラッシュファンク		
バークメール		
アーマーラスト		
マナダウン		
軍師の知略		
慮外なる烈撃Ⅰ		
衝戟の剛削Ⅰ		

技能	基本	基本	基本	基本追加
	レベル	命中力	回避力	ダメージ
ファイター	0			
グラブラー	0			
フェンサー	0			
シューター	12	19	14	14

鎧と盾	必要	ランク	筋力	回避力	防護点
鎧 守護石のコンバットバトラスーツ			12	1	0
盾					
その他補正(防具習熟/回避行動 etc)					
回避技能					合計値
					1
					0

武器	用法	必要筋力	命中修正	命中力	C値	追加ダメージ	威力	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	
ミーティア	2H	8	2	2d+ 23	9	16	18											
魔法の武器				2d+ 1		0												
妖精の武器				2d+ 1		0												
ステープルサイト				2d+ 1		0												
アビス強化				2d+ 1		0												
アビス強化				2d+ 1		0												
オーダーメイド加工+3				2d+ 1		0												
イグニダイト加工				2d+ 1		0												

制限移動	通常移動	全力移動	回避	防護点	HP
3 m	9 m	27 m	2d+ 1	0	66
魔物知識/弱点	先制力	生命抵抗	精神抵抗	MP	
2d+ 19	2d+ 18	2d+ 16	2d+ 19	38	

魔法技能	Lv.	魔力	魔法技能	Lv.	魔力
神聖魔法	2	10			

装備品	説明
頭 学識ある教習のどんがり帽子	魔物知識判定+2、頭部位追加
耳 ディスプレイヤー・ガジェット	その他部位を得る
顔 狩人の目	まもちき失敗でもレベル判明、成功で命中+1
首 スマルティエの銀鈴	その他部位を得る
背中 野伏のセービングマント	回避・抵抗失敗時の魔法D-4
右手 操りの腕輪	MP3消費で矢・太矢を12本まで補充
腰 補充の矢筒	
足 聖印	
その他 操りの腕輪	大魔林（右手とセット）

装備品	説明
軍師徽章	
矢筒	
グリーンベルト	
ディスプレイ・ガジェット	その他部位を得る
左手 誓いの指輪	レイモンドさんと
知性の指輪	補助動作で(スマルティエの風切り布)に換装

その他メモ	自動失敗
#C1E0FF	チェック
意地っ張りで口が悪い、けれど仕事は率先してこなす少女。	□□□□⑤
母親はリタが小さいころに家を出ており、以降は叔母に育てられていたが、その叔母が病に倒れ急逝したことで抛り所を失い、冒険者として生計を立てていくことになる。	□□□□⑩
時間を見つけては学術書の類に目を通しているが、これは「自分にはありとあらゆるものが足りていない」という自覚からその不足を知識で補おうとしているものである——少なくとも本人はそう自認している。	□□□□⑮
そういった自身の行動とは裏腹に、学者の類を快く思っていない。	□□□□⑳
	□□□□㉑
自己評価は基本的に低く、またそれを隠そうとしないどころか自ら口に出すことがままある。	□□□□㉒
自分自身の能力を客観的に評価した結果だというのが本人の弁。	□□□□㉓

